

NEWSLETTER SPECIAL EDITION

2019年度グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)特集

2020年2月15日(土)~3月16日(月)の31日間、海外協定校であるリンカーン大学(ニュージーランド)にて短期英語研修が行われ、奈良女子大学から21名の学生が参加しました。
プログラムの内容と共に、学生の感想を紹介します。

PROGRAM



リンカーン大学の英語の授業は、Academic Writing、Reading、Listening/Speaking、Research Skillsで構成されました。また、ニュージーランドの歴史や文化・震災についての特別講義を3回受講しました。研修参加者は「カンタベリージャパンデー」に出展するため、後期授業で「異文化理解と平和構築」を履修し、当日まで準備を重ねました。研修期間中はホームステイ先で過ごしたため、さまざまな体験もできました。

Lincoln University SPECIAL LECTURE

「マオリの文化」「ニュージーランドの都市設計」「地震後の街・復興」の特別講義を受講しました。

日本とクライストチャーチの大きな共通点であり、また自分の専攻とも深く関わる「地震」にまつわるテーマを学べたのはとても貴重な機会だった。それぞれの国によって違う点・同じ点はあるが、地震からの復興や都市計画など参考にすべきところがたくさんあると感じた。

マオリの文化と、ランドスケープ、地震についての講義がありました。ランドスケープは自分の学科にも関連していたので新たなアイデアや考え方を学ぶことができました。



ニュージーランドの歴史や伝統的な文化だけでなく、それが現代にどう繋がっているのかや、未来にどう繋がっていかうとしているのかを知ることができて、学びが深いものになりとても良かった。

ニュージーランド、またリンカーンについて詳しく学ぶことができた。また最後の特別講義ではそれぞれの創造性の大切さについて学ぶことができ、これからは自分や周りの人の個性あふれる創造性を大切にしていこうと考えるようになった。

建築に関する特別講義では、自然を壊して何かを造り上げるのではなく、あくまで共存するという形でビジョンを作る、というような自然を大切にしようとし、実際にしてきたニュージーランドの人々の感性に触れることができました。また、2011年の地震に見舞われた際にも、皆が助け合い、協力して復興を進め、被害者を悼むモニュメントを作成したりという活動が、同じく地震大国である日本にも通ずる部分があるように感じられました。

マオリの文化の講義が印象に残っています。自然とともに生きていて自然を愛していることが、授業で扱った歌詞から読み取れました。ニュージーランドは自然の風景が美しいところなので、この雄大な自然をマオリの人々は尊重しているのだと思うと、自然もマオリの人々も素敵だと思いました。

ENGLISH CLASSES

リンカーン大学既存プログラムであるEnglish for Academic and Professional Purposes (EAP)では、レベル別にクラスを受講し、多国籍のクラスメートと一緒に英語を学びました。

Writingの授業で、文章の構成の仕方が分かるようになりました。文法や前置詞が分かるようになりました。ReadingやSpeakingの授業ではニュージーランドに関する話や有名なものを知れて良かったです。先生方もとても優しく、明るく教えてくださいました。クラスメイトと英語で話し、英語力を向上させるような授業だったと思います。

すべてがネイティブの先生による授業だったので新鮮だった。宿題など聞き取るのが大変だった時もあったが、リスニング力が少し向上したと思う。英語のエッセイやレポートを書いたり、プレゼンをしたり、すべてが初めての経験だったのでためになった。

日本の大学に通っている中国人の女の子と出会い、たくさん言語が話せるかっこよさに刺激を受けました。

自分の英語力よりもクラスのレベルが高く、初めはついていけないか不安だったが、最終的には力も付きとても良かった。また、他の国の学生と授業を通していろんな話ができ、多様な価値観を知ることができたのも良かった。

日本でいう授業とは全く違って主にスピーキングやリスニング、ライティングを重点的に行いました。授業はもちろん全て英語で行われるので、聞き取れずについていけなかったこともありましたが、質問すれば丁寧に答えてくださって、なんとか授業についていくことができ、楽しいと感じました。また、高校で習ったことと矛盾することを習い、授業後に先生に聞きに行ったら、それは日本の教科書の英語だよ、本当に使われているものとは違うと言われました。実際に現地に行って、現地の人から学ぶ英語はとても価値のあるものだと感じました。

日本の授業より発言を求められることが多かった。先生が言っていることを理解するのはいっぱいだった私は自分の意見を言うことはかなり難しかった。でも、間違いも受け入れてくれる雰囲気ややってみようという気持ちになれて、たくさん間違えたけれどその分だけ身についたことは多かった。



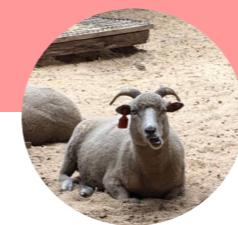
ニュージーランドに約一か月滞在し、国籍の違う学生達と勉強したりホームステイをしたことで、「自分の英語力」や「価値観の変化」、「日本の文化と他国の文化」について考えた学生が多くいました。研修に参加した学生達がニュージーランドで発見したこと、感じたことを紹介します。



留学生のモチベーションの高さに刺激を受け、自分も頑張らなければならないと感じた。ホームステイ先の両親の働き方をみて、プライベートの時間をしっかりと確保できていると感じたこと、人件費がとても高いことなどから、働く良い環境が整っていると感じた。マオリ民族を迫害した歴史を反省する姿勢があり、さまざまな人種の人々が平等に扱われていてとても倫理観の高い国だと思った。自然と動物が身近にあり、人々はそれらをとても大切に思っていると感じた。SAVE WATER FOR NATUREなどのポスターがあったり、商品の包装や袋なしのものが多かったり、ビーガンのためのメニューが用意されている料理が日本に比べて多く、NZ人の環境意識は高いと思った。NZには日本のものが人気であり驚いた。

この一か月の研修でリスニング能力を鍛えられたと思う。それ以外はあまり大きく英語力が上がったという自信はないが、今回初めて海外に行き、もっといろんな国に行ってみたい、たくさんの国の人と交流してみたいと思った。そして英語を勉強するモチベーションが上がった。またグローバル化が進んでいるということを実際に感じる事が出来た。今までは学校で習ったことぐらいの知識しかグローバル化について知らなかったが、思っていた以上に日本の製品を多く見つけることができた。これから社会に出ていくうえでの英語の必要性を強く実感した。

ニュージーランドの生活を通して、日本人は凄くカリカリしているなというか、全体的に忙しい人が多いと気づかされた。ニュージーランドではバスが遅れても誰も怒ったりピリピリしていなかったため、とてものんびりとリラックスした気持ちで1か月過ごすことが出来た。



DISCOVERY IN NEW ZEALAND

1か月間、ニュージーランドに滞在することで、ニュージーランドの文化や観光資源、自然環境を体験することができました。クライストチャーチや、アカロア、テカポ湖などに行きました。それぞれの自然環境が美しく野生動物に会えました。自然環境を保護するための仕組みがニュージーランドにはありました。ニュージーランドに住む固有の動植物たちを見ることができて良かったです。ホームステイすることで現地の人々の暮らしを知ることができました。ニュージーランド特有の料理やお菓子も味わえました。また、歴史的な建物を見ることで、ニュージーランドの歴史がよく分かりました。授業でもニュージーランドについて書かれた文章が多く、より詳しくニュージーランドについて知ることができました。ニュージーランドにホームステイして、効率よく英語を勉強できたと思います。

ルームメイトの子は高校を卒業してからNZで勉強してて、今後の目標も聞かせてくれた。世界規模で色々なことを考えてるし、自分の意思をしっかり持っていてすごく刺激をもらった。

ホストファミリーや現地の人と交流する中で、ニュージーランドの人々はとてもフレンドリーだと思いました。すれ違った知り合いでない人にあいさつをしたり、友達と友達とその場で打ち解け合ったりする世界を見て、いろんな人と交流する雰囲気が素敵だと思いました。また、ニュージーランドの人々だけでなくバスのシステムや料理からも、日本がいろいろと細かいのに対して、おらかな様子が伝わってきました。どちらが良くてどちらが悪いというのではなく、それぞれの文化が素晴らしいと思うし、こうやって他の文化を知ることで逆に日本に対する新たな見方もできるようになると思いました。これらを踏まえて、もっといろんな文化や世界を知りたいです。そのためにはニュージーランドで出会ったように、初対面の人に対する壁がないことが大切だと思いました。さらに、交流のための手段である英語をもっと頑張ろうと思いました。



Canterbury JAPAN DAY

今年のカンタベリージャパンドー（クライストチャーチ市カンタベリー日本人会主催の日本祭）は、「冬」をテーマに開催されました。奈良女子大学からは、アウトドアパフォーマンスで「制服のファッションショー」を行い、インドアパフォーマンスでは「防災について」をクイズ形式で発表しました。また、屋内ブースでは、日本のお正月について説明したポスターを掲示し、「かるた体験」「年賀状作り体験」のコーナーを出展しました。

多くの外国人が日本に興味を持ってきていることが分かり嬉しかったのですが、ときどき日本人である自分が答えられない日本についての質問をされることがあったので、日本についてもっと知らなくてはならないと思いました。

私は今回アウトドアの発表班で制服ファッションショーを行った。前日の話し合いで大幅に変更少し焦ることがあったが発表班のメンバーで力を合わせ、また先生やジャパンドースタッフの方々の協力もあり本番は大成功を収めることができた。また他のジャパンドー出演者や見に来てくれた人たちが私たちのショーを盛り上げてくれる様子を見てニュージーランドの人々のあたたかさを感じた。前日準備もみんな一丸となり各自が率先して自分のできる仕事を行ったおかげで早く終わることができた。楽しくて学びの多い充実した2日間だった。



学校ではほとんど留学生としか関わりがなかったので、現地の人たちとたくさん交流できたのが良かった。ブース班だったのでコミュニケーションを取る機会が多く、様々な年代の人と話すことができた。やはり伝えるのも聞き取るのも難しかったが、現地の方々が本当にフレンドリーで優しく、とても楽しかった。



準備日は今まで話したことのなかった奈良女の子と話すきっかけができてよかった。当日は、あまりアクセスのいい場所ではないにも関わらず、多くの人が集まっておき、日本に興味がある人がこんなにいるのかと驚いた。特に子連れの人たちが多く、子どもにいろいろな文化に興味をもってもらいたいと思っている人がニュージーランドには多いのかなと思った。

私は外のパフォーマンス班で、制服のファッションショーを行いました。とても緊張しましたが、現地の方々がとても温かく見てくださったし盛り上げてくださいました。そのおかげで私も練習してきたことを楽しく披露することができました。準備を通して、日本とニュージーランドとの違いを知り、そのようなこともとても面白いと感じました。当日は想像以上にたくさんの人たちが訪れてとても驚きました。

HOMESTAY

ホームステイをすることで、ニュージーランドの人々の生活、食事、文化などを体験することができたようです。

ホームステイだとネイティブの人と必然的にかかわらないといけなくなるので、その環境が英語の能力の向上に大いに役立ったと思った。また、現地の人の暮らしを実際に体験することによって、日本での暮らしとの違いを含め様々なことに気が付くことが出来た。

ホームステイで良かったことは食事や洗濯等の生活面のサポート、そして家族と幸せな時間を過ごせたことだと思う。安心して過ごせたおかげで大学での勉強にしっかり打ち込み、またニュージーランド観光も十分に楽しむことができた。ニュージーランドの生活で印象的だったのは皆とてもフレンドリーだったことだ。挨拶一つでとても嬉しくなり自分からも率先して挨拶するようになった。

ホストマザーが作ってくれる料理がとても美味しかったので、毎日の夜が楽しみでした。外国は、お肉ばかりだと思っていたのですが、野菜もよく出てきて健康に気をつけているのだと思いました。また、夕食の時には、ホストとニュージーランドと日本の食文化の違いを話したりできて楽しかったです。ホームステイをしたことにより、ニュージーランド人と日本人の違いや共通点がわかり面白かったです。

リンカーン大学では、日本の友達がいるので、日本語を話してしまう部分があったが、ホームステイ先に帰ると自分で話を聞き取って、会話をしないといけないので、自分の英語スキルを上げるのにとても役に立ったと思う。また、ホームステイをすることで、ニュージーランドの人の食習慣や休日の過ごし方などを体験することが出来た。特に就寝時間や終業時間が日本と大きく異なることに関心を持った。



FUTURE

この研修で学んだことや得た経験は、学生達にどのような変化を与えたのでしょうか。そして、彼女たちは、その変化をどのように活かしていくつもりでしょうか。

研修を通して私が一番に思ったことは、自分の生きる場所を日本だけに留める必要はないということだ。具体的にいうと、出発前は日本での就職を前提にこの留学を最後だと勝手に決めつけていたが、なにも日本に絶対に就職しなくてはならないことはないということがわかった。NZに行き、他の留学生在がもっと長期に渡って英語を学んでいるのを見て、もっと英語に触れたい、学びたいと思う気持ちが強くなった。この研修のおかげで、より広い視野を持って自分の将来について考え始めた。

今回、ニュージーランドで現地の大学生と同様に大学生活を送ったり、カンタベリージャーパンデーに出展したりと貴重な体験が出来た。その中で、講義中やホームステイ先にいるときでも、積極的に発言したり、自分の思っていることを言葉にすることが大切だと感じた。しかし、英語での表現が分からず伝えられないことが多々あったので、研修後にも英語を勉強していきたいと思った。また、自分たちが習ってきたアメリカの英語と発音や文法が違うところにも興味を持ったので、そのような違いも学んでみたいと思った。

能動的な考え方、およびそれに伴う実行力の重要性を学びました。本プログラムでの1か月間をどこまで有意義なものにできるかは、どのような意識で講義に臨むのか、また放課後・休日をどのように過ごすか等、全て自分次第であるということ念頭にニュージーランドでの生活を楽しみました。本プログラムで学んだ英語の学習法はこれから自分の力になってくれますし、異文化に触れる驚きや楽しさに気付くことができたことで、今後大学院進学という長期の海外滞在中も楽しんでやっていけるだろうという自信になりました。

今回研修に参加して、多角的に考えられるようになった。留学に行くと視野が広がるとよく言うが、異文化に触れて新しい知識を得るという点で視野が広がるのに加え、自国を離れることで客観的に自分を含め周りのことを見られるようになるのだと思った。また、家庭の在り方や仕事についても考えさせられることが多かった。ほかにも授業を受けている中で私には積極性が足りないのだと感じた。今回の経験を踏まえて、自分の意見をきちんと伝えることを意識していこうと思う。

日本にいただけでは体験することができなかったたくさんのことをニュージーランドで経験し、視野が広がったように思う。帰国してから今まで見てきた日本を少し違った視点で見ることができるようになった。今後も様々な視点からものごとを考え、柔軟に対応できるように努めていきたい。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER NZ特別号 2020年6月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>